

公表

事業所における自己評価総括表 児童発達支援

○事業所名	HIYOKO STUDY館下教室			
○保護者評価実施期間	2026年 5月 1日 ～ 2026年 5月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	0名
○従業者評価実施期間	2026年 5月 15日 ～ 2026年 5月 26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 6月 2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基本保護者同席での支援のため関係性の構築がスムーズで、児童の様子や確認事項等も随時共有できていた。	保護者様との共通理解を持ちながら支援を行っている。 担当職員が支援を行うため、継続的な一貫した支援が出来ていた。	引き続き保護者様との関係構築、維持が出来るよう丁寧な関わり方を徹底していく。
2	個別支援のため個室を使用し、落ち着いた空間でその児童に合った支援を行うことができていた。	空間設定をしっかりと行い、低年齢の児童でも安心して入室できるよう環境設定を行っていた。	環境設定を児童目線で行い、児童に分かりやすい環境づくりに取り組んでいく。
3	個別支援計画に基づいた支援が行えた。	保護者様に説明する時間を頂き、同意の上で支援計画に基づく支援を行うことが出来ていた。	面談の際に保護者様の気持ちをしっかりとくみ取り、計画書に反映させていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職員（ST、OT）の配置が難しい。	専門職員の設置を行い、支援の質を上げる。	人員配置の検討をしていく。
2	家族支援プログラムやご家族等で参加できる研修会の情報提供の機会がなかった。	ご家族で研修する機会を設けられなかった。	今後は家族参加型の研修会や情報提供の場を設けられるよう努める。
3	イベントの開催等による、きょうだい同士の交流の機会が設けられていない。	開催することができなかった。	開催できるよう検討していきます。